第１回中央区地域福祉計画策定委員会議事要旨

日時：平成 16 年 7 月 24 日（土）午前１０時～１１時４０分
場所：中央区役所　4 階講堂
出席委員：25 名中 18 名出席
事務局：中央区　　山本区長
　　保健福祉局　　古川局長
　　保健福祉総務課　　片岡参事、皆川主幹、北田補佐、高須主査、
　　和田副主査、仙田主事、西森主事
　　地域保健福祉課　　鈴木主任主事
　　障害保健福祉課　　内山副主査、佐藤主任主事
　　中央区福祉事務所　藤代副主査、宍倉副主査、友井主事
　　社会福祉協議会　　鈴木係長
関係者：４名
傍聴人：０名

会議内容
　次第に従い、開会後、山本中央区長が挨拶。
　その後各委員が自己紹介を行った。
　古川保健福祉局長自己紹介
　自己紹介後、議題に移った。

＜議題＞
(1)　会議の公開について
　委員に区策定委員会の公開・記録についての意見を聴いた。
　公開・記録についての異議はなかったので、今後の区策定委員会は公開し、記録又内容についてはインターネット等を通じて市民に周知する。

(2)　各地区フォーラムの取組状況について
　資料を基に各地区フォーラム委員長が第３回地区フォーラムまでの課題の検討について報告した。

「西千葉・中央・松波・東千葉地区フォーラム」（樽見委員長）
　キーワードをまとめて、Ａ・Ｂグループそれぞれ４つの課題について検討することになった。

（Ａグループ）

「生活支援」について検討した。

サービスのあり方、地域のつながりのあり方が今後の重要な課題であり、全員で取り組んでいく必要がある。

どのような地域社会であれば自立して生活が送れ、安心して暮らせるか考えてみた。

高齢者については、民生委員が積極的に助け合いことが必要。

子育てについては　保育サービスの多様化、障害児も一緒の遊べるような居場所作り。

当事者同士のセルフヘルプグループへの加入、また、未設置地区には専門家がグループを作る。

横断的・総合的な提案としては、行政サービスとは別に地域住民による相互扶助が必要で、福祉コミユニティにつなげていく。行政は不測の事態に備えての対応や活動拠点整備等のバックアップ体制を整える。

「地域生活支援センター」を整備し、専門家を配置する。また、各種施設のネットワーク化を図り、各対象者にあった整備が必要。公民館などの既存施設を教育と福祉の多目的な複合施設とし、有効活用、身近な福祉の拠点とする。

ボランティア券の発行。

（Ｂグループ）

「交流・居場所の確保」について検討。

地域における連携の欠如している。

課題の整理として、高齢者は、外に出ない、また、話し相手がなくストレスがたまる

児童については地域の行事が少ない。子ども会への参加の減少、異年齢との交流がない。子どもルームがない。障害あるなし関係なく安全に遊べる専門指導員が設置された屋内施設が必要。

精神障害者の社会復帰施設が少ない。

解決策としては､空き教室を障害者の作業所として活用する｡また、保育園の園庭を開放しているので、高齢者に来てもらう。

自治会でボランティアのコーディネートができないか

「地域に住んでよかった」というまちにするために地域住民全体で取り組んでいくことが必要である。

地域でしか出来ないこと、できないことがある。地域住民は勉強しながら、専門家と連携をとっていくことが必要、行政は専門家の登用を図る。

「ちば中央・都・寒川・末広地区フォーラム」（細井委員長）

何をしたらいいかわからない中でスタートした。

取り組むべき姿勢、地域福祉計画策定の為に誰が何をすべきか全体像、役割・仕事の道筋を明確にすべきである。委員一人一人の責任感からこのことは言える。

（Ａグループ）

単に支援するだけの解決策を示すだけでなく支援される側の残された能力を有効に活用していく。例えば長年培ってきた高齢者の経験を小学生に伝える。生きがいにつながり、一人一人の小さな力が解決策の大きな力になると感じた。

（Ｂグループ）

いろいろなアプローチがあっていいが、多くの問題を分類整理し、将来予測をしたうえで、福祉活動を行う具体的な目標と照らし合わせて、大きな構えと手だてが必要、大事な物の見方、時間をかけて討議しなくてはと考えている。

自分がもっとも言いたかった事、気づいたことを紙に書いて提出してもらった。４回目に有効に活用できる。

「星久喜・松ケ丘・川戸地区フォーラム」（池内委員長）

前の２地区と問題は類似している。

地区の特性は、川鉄の誘致に伴いその従業員が来て、それから５０年、ガンセンター、東病院など医療機関は充実している。住民は高齢者が多くおっとりしているのが特徴。

（Ａグループ）

「人材の確保」について検討した。

福祉ニーズの多様化、人材の活用が大きな問題、利用者の声が反映されない。多種多様な要望に答えられない。

事業所に対する要望、老人の声が届かない。
人材は豊富な経験を有することが必要。
社会に役立ちたい人は多いが、ボランティアと福祉にうまく結び付かない、市政だよりを活用できないか。
障害者教育の充実　リハビリが積極的に出来る場所、指導する専門家を行政が集める必要がある。
障害者・高齢者のヘルパー、千葉県障害者福祉センターの卒業生を上手く活用できないか
町内会名簿作成の際に身体障害者の記載を依頼したら怒られたが、災害発生時は必須、このことについて話し合いたい。

（Ｂグループ）
「交流・居場所の確保」について検討した。
日本は宗教が希薄である、このため交流・居場所ができない。
女性は地域の情報を多く持っている。子どもの成長に応じて得た地域の情報を男性に上手く伝える必要あり、地域に引っ張り出すことが必要。男性を引っ張り出すには奥さんを引っ張り出すのが有効。ゲートボール、グランドゴルフが有効である。男性に地域の問題の３０％を解決してもらいたい。
高齢者は、外に出るのがおっくうだと感じている人が多い。
町内会費を集めるのに年１回でなく２月に１回とか回数を増やす。募金についても回数を増やし、１軒１軒まわって、交流を図る。
スポーツ、福祉、防災をテーマとして、地域での話し合いを進めてみてはどうか有意義で活発な会議であった。

「蘇我・白幡台・生浜地区フォーラム」（武井委員長）
県との関係、全体像が見えない。問題から解決策を見つけだす方法でいいかなどあったが、とりあえず進めてみて問題があれば見直そうということでスタートした。
他のフォーラムと似通っているが、特徴的なことについて説明。

（Ａグループ）
「地域生活での居場所づくり」について検討した。
高齢者の居場所作りについては、老人つどいの家の周知、公民館への期待。民間の福祉施設の利用が施設側から提案があった。

自治会の集会場でいきいきサロン、学校の有効活用、地域の居場所マップの作成など。

児童についても居場所の情報、子育てサロンのＰＲが問題。公園デビュー、ニーズに応じた居場所が必要改善策を煮詰めて行きたい。子どもルームの時間の問題、公民館でもやっているが利用が少ない。魅力のある居場所

障害者関係については、住む場所と働く場所が一緒であることが望ましい。身近にグループホームができるといい。地元で安心して住めるようにプライバシーの問題があるが、情報がなく連携がとれない。地域で安心して暮らせるよう見守り体制作りが大事。

次回から解決案としてとりまとめる。

（Ｂグループ）

「生活支援」について検討。

助ける意識があるが、具体的行動がわからない。

児童の生活支援については、少子化を是正するための生活支援が必要。また、子育てと就労の両立、子どもと親が一緒に過ごせる時間を増やすための支援が必要。

障害者に対する生活支援については、知的障害者の親がいなくなった場合どうするかが問題。今後、成年後見人制度が充実してくるので、受け皿となってくるのではないか。また、民間のボランティアと民生委員の連携をとっていく。情報の事前登録を行い、支援を受けやすくする。

子ども達については、福祉に関する教育の充実などが解決策に結びつくのでは。

(3)　委員長，副委員長の選任について

区策定委員会委員長、副委員長の選出について、委員に立候補の確認をしたところ、委員長として「蘇我・白幡台・生浜地区フォーラム」の武井雅光委員が板倉委員より推薦され、委員全員から賛同を得て、選出された。

副委員長については、相楽委員から女性のフォーラム委員長の中から選出したらどうかいう意見があり、「西千葉・中央・松波・東千葉地区フォーラム」の樽見委員が選出された。

(4)　**その他**

特になし

以上